訂正版

こんにちは！ 村立東海病院です

知っておきたい！「胃がん」と「大腸がん」のこと

現在、がんの中で日本人に一番多くみられる「胃がん」と「大腸がん」。これらは検診や検査での早期発見と早期治療が大切です。今回は、当院の胃カメラ検査・便潜血検査の受診状況を踏まえながら、胃がんと大腸がんについて紹介します。

胃がんの原因の多くは「ピロリ菌」

胃がんの原因の一つとして、約40年前にオーストラリアのウォレン博士が発見した「ピロリ菌」(ヘリコバクター・ピロリ)が広く知られています。ピロリ菌は幼少期に感染することが多く、母親からの感染が約70パーセント、その他の家族からの感染が約10パーセント、ほかに環境や集団生活も感染の原因とされています。

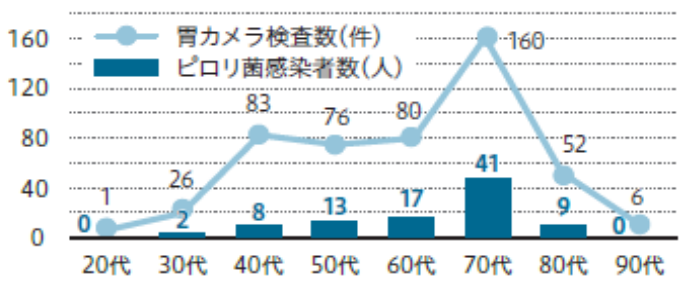
【「胃カメラ検査」を受け、ピロリ菌を除去しましょう】

当院では昨年、20代から90代までの方(3か月間の合計484人)に胃カメラ検査を行い、90人のピロリ菌感染者の除菌治療を行いました。このうち4人の方は胃がんが見つかり、手術となりました。

“胃がんの方の99パーセントはピロリ菌に感染している”というデータもあります。胃の不調を感じている方は、まずは胃カメラ検査を受け、ピロリ菌を除去することが大切です。

胃の不調を感じている方は、まずは受診をご検討ください。

【グラフ　年代別胃カメラ検査数とピロリ菌感染者数】



ピロリ菌感染者のほとんどに、胃が痛い等の慢性胃炎の症状があります。除菌後もこの症状が修復されるまでの10年以上は、胃がんリスクが非感染者の約10倍といわれており、年に1度、胃カメラ検査を受けることが大切です。

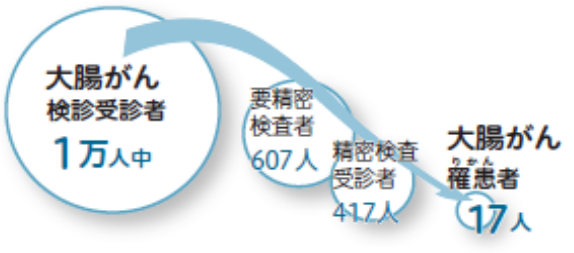
大腸がんの原因となる「ポリープ」

大腸ポリープは、40代からできる人が増え、60代では2人に1人が持っているといわれています。ポリープには、腺腫(隆起型)とDeNovo（平坦型)があります。ポリープががんになるには、5年以上の年月がかかりますが、DeNovoタイプは1年ほどで急速にがんになり増大することがあります。ポリープを取れば安心というわけではなく、状況により1～2年で再検査が必要となる場合があります。

【毎年受けていますか？「便潜血検査」】

右下の図は、当院の大腸がん検診(便潜血検査)受診者1万人中、がんが見つかった方の割合です。便潜血が陽性だった方の約3パーセントに大腸がんが見つかっています。早期発見のためには、便潜血検査を受けることが大切です。

【図　大腸がんが見つかった方の割合】



大腸がんの方の約30パーセントは、便潜血検査が陰性です。「やや太り気味」「肉やハム類が大好き」「親族が大腸がんである」等の方は、大腸がんのリスクが高いとされています。検査結果が陰性の方でも、一度は大腸カメラ検査を受けてみることをお勧めします。

村立東海病院 内科医師　佐藤 匡美

当院ではなく、「日本対がん協会」の関連施設で集計した情報です。
当院では、大腸がん検診は実施しておりませんので、大腸がん検診を受ける方法は以下のようになります。

・東海村（保健センター）で実施している総合健診、住民検診に申し込む
・人間ドックを実施する健診機関や医療機関に大腸がん検診もできるかを確認する
・症状がある方は、医療機関を受診する

結果が陰性の場合、医師が症状等も総合的に踏まえ大腸カメラ健診を実施するか判断いたしますので、症状がある方は、まず受診をご検討ください。